

「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画～よりよい幼児教育・保育環境を提供するために～
(令和3年度～令和12年度) 第一次改定版(案)」に寄せられた意見と市の回答(概要)

意見提出人数104人(意見総件数159件)

①統合に関する意見 (84件：中津地区50件、坂下地区8件、付知地区11件、福岡地区13件、蛭川地区1件、市外1件)			
概要番号	地区	意見	教育委員会の意見
1	坂下 福岡 中津	・園の統合により子どもが健やかに育つか疑問に思う。幼児期の子どもにとって少人数保育は大切。保育士数が減り、担当園児数も増え、負担が大きくなる。 ・少子化だから統合でなく、少人数だからこそできる保育教育の場にしてほしい。 ・保育園を減らすはなぜか。人数が少なくなったから統合という安易な考えにしか思えない。	・本計画は子どもたちの適切な集団規模の確保を目的としており、適切な集団規模は20人を基準としております。各年齢に見合った適切な集団規模を確保し、よりよい幼児教育・保育環境を提供してまいります。また、計画を進めることにより、公立施設における正規職員の比率向上が見込まれますので、保育士の確保及び勤務環境の改善が見込まれ、保育の質の向上に繋がると考えております。
2	中津 中津 中津	・一色、北野、中津川保育園の統合に反対。計画案にある200名は多すぎる。保育士不足にも繋がると思う。 ・保育士不足の現状で多くの子供を見ることができると心配。 ・統合後も保育士の労働条件が厳しくならない、手厚い保育が受けられる環境であってほしい。	・本計画は、子どもたちの適切な集団規模の確保と保育士の確保及び勤務環境の改善を目的としており、常勤保育士の数を減らすことは検討しておりません。そのため、統合により公立施設毎の保育士比率の向上が見込まれますので、保育士が不足するとは考えておりません。
3	福岡 苗木 中津 市外	・3園が一緒になり、人数も増え部屋数や未満児が過ごせる部屋はあるのか。 ・中津地区の3園統合後の定員が統合前と変わらない定員なのは、入園した子どもによりよい保育環境が提供できるのか疑問。 ・中津川保育園の定員人数が統合後も変わらないことから待機児童が増えると思う。中津地区内に公立園が1園しかないのはおかしいのではないかと。 ・保育園統合により定員数が減少し、待機児童が増えると思う。待機児童が増えることで女性の社会進出を阻むことになるがどう考えているのか。現就職している方が待機児童となる場合、事業所の仕事にも支障が出ますが、それについてどう考えているのか。	・計画書の工程表で示した人数は現在の園児数であり、今後も減少傾向にあります。定員については施設の規模に見合った定員設定を行うと共に、定員設定に応じた職員を配置し、よりよい幼児教育・保育環境を提供してまいります。 ・令和4年4月1日時点での市全体の公立、私立の幼稚園、保育園、こども園、小規模保育事業所の園児総定員数が3,177人に対し、利用人数は2,060人になります。中津地区内総定員数についても1,542人に対し、利用人数は1,044人となり、今回の統合に伴い待機児童が発生することはないと考えております。また、令和4年度4月時点において当市では待機児童は発生しておらず、今後も待機児童が発生することの無いよう保育の実施の責任を果たしてまいります。
4	中津 福岡	・改定前の一色、北野の統合に賛成。少子化のために中津川保育園との統合は強引だと思う。 ・各地区に公立保育園を残し、子どもの教育・保育を市が責任を以て行っていくことが大切だと思う。一色、北野2園の統合で1園を公立として残すべき。	・中津地区は公立、私立の幼稚園、保育園等がそれぞれあり、保護者の幼児教育・保育需要に応じた施設が選択できる環境にあります。 ・市の中心地域として利用が集中する地域ではありますが、公立園は私立園と比較し、定員に対しての利用率が低い状況にあります。そのため、令和3年度5月策定計画では一色保育園と北野保育園を令和12年度に統合し、「中津川こども園」として公立で運営する計画でございました。しかし、これまで年間400人程度で想定していた出生数が年間370人程度まで減少する見込みとなったため、公立園、私立園がともに子どもたちの育ちにとって望ましい保育環境、適切な集団規模を確保するために、一色保育園と北野保育園の統合ではなく、段階的な中津川保育園への統合を行う計画としました。
5	中津 付知	・一色、北野の統合を早く進めすぎている。子どもが地域と関わる事が無くなる。福岡保育園の施設規模が統合後の規模に見合うか疑問。 ・福岡保育園に福岡地区の子ども全員は入れない。園舎の新築が可能か疑問。	・本計画において、公立園の施設整備の実施は検討しておりません。統合後においては、施設の規模に見合った定員設定を行うとともに、地域の保育需要に対応出来る形を検討してまいります。
6	中津 中津 中津	・小規模ならではの保育や保育環境の良さが失われたいことを願う。 ・統廃合に反対。保育園の数が減っては、ゆとりある子育ては難しいのではないかと。 ・公立園を減らさず、中津川の保育の質を守ってほしい。	・本計画は、子どもたちの適切な集団規模の確保と保育士の確保及び勤務環境の改善を目的としております。適切な集団規模の確保を行うことで、子どもたちが集団を楽しむこと、互いに影響を受けて育ち合う規模を確保していきたいと考えております。また、公立園の保育士比率が向上することにより、保育士一人あたりの負担の軽減にも繋がります。中津川市の幼児教育・保育の質の更なる向上に繋がると考えております。
7	坂下	・私立の幼保、公立の幼保は子育ての方針、時間帯も異なるため統合に反対。	・公立、私立の幼稚園、保育園において、適切な運営、幼児教育・保育を提供してきており、多様な保育需要に対応できる新しい形の幼児教育・保育環境を提供するために、民間事業者が持つノウハウやアイデア、特色などを活かして、効果的・効率的なサービスの提供が行われています。また、私立園におきましても行政の認可のもと、一定水準以上の教育・保育が提供されており、市が行う保育の実施は、市が責任を以て行っていくことと変わるものではありません。
8	中津 坂下 付知 福岡	・少子化を理由に統廃合することは、送迎に負担がかかり、子育て世代も定住しにくくなり、過疎化が進むと思う。小規模園が地域に根ざし、親同士の交流の上で子育てをしていくことが、障害児も増えている現状を必要だと考える。 ・統廃合に反対。統廃合になれば若者の定住も困難になる。 ・少子化だからと園を減らしたら少子化過疎化が進む。コロナ禍で出生数も減少している。 ・子育てしやすい町づくりは、住居の近くに保育園があることであり、小規模の保育園でも地域の人の目に届くように幼児が育つことが人間の成長に欠かせない重要な要素と考える。	・本計画は子どもたちの適切な集団規模の確保と、多種多様な保育需要に対応するために必要な保育士の確保及び勤務環境の改善を目的としております。本計画を進めることにより、公立施設においては正規職員の比率向上などを通じた教育・保育や子育て支援サービスへの更なる拡充、発達支援を要する園児への支援の実施が見込まれます。また、多種多様な保育需要に対応する子どもも、子育て支援策への効果的な財源配分を行うことが可能になり、私立施設への保育の質を向上する取り組みに対する財政的補助が可能になるものと考えており、移住・定住推進施策の事業の一つでもある「子育て支援の充実」につながるものと考えております。
9	中津 付知 福岡 中津	・幼稚園、保育園が遠いと送迎の負担が大きいため園を減らすことに反対。 ・統合により保護者の送迎に係る負担が増える。 ・福岡保育園と高山保育園が統合すれば送迎に負担が掛かるため、反対。 ・場所が変わって時間も変わると朝さらに忙しくなるのは困る。	・園の統合により、通園距離が長くなるご家庭があることは事実ですが、統合しない園と比較しても同程度の通園距離になると考えております。通園距離の延長に伴い、保護者の方々の送迎時間が早くあるいは遅くなることも考えられますが、保護者の方々の負担にならない保育体制の整備を行ってまいります。
10	福岡	・以上児と未満児が登園する園を別々にしてしまうと保護者の負担が大きくなる。以上児と未満児は同じ園が良い。	・高山保育園の未満児園化は今回の改定案において、福岡保育園との統合を行うよう変更しております。
11	中津	・東校区に公立の保育園が一つもないのは不便。東校区から中津川保育園に通うのは遠い。市が交通費を支給するのか。校区ごと一つあるべき。 ・東地区に保育園が無くなるのは困る人が増えるのではないかと。	・統合した園においても、統合しない園と比較して同程度の通園距離になると考えており、通園距離が長くなることに伴いならぬ対応をすることは検討しておりません。また、中津地区は公立、私立の幼稚園、保育園等がそれぞれあり、保護者の幼児教育・保育需要に応じて施設を選択できる環境にあります。私立園におきましても行政の認可のもと、一定水準以上の教育・保育が提供されており、市が行う保育の実施は、公立園を指定管理または統廃合をしても、市が責任を以て行っていくことと変わるものではありません。
12	福岡 中津 中津	・下野、高山から送迎する方が停める駐車場の整備も必要だと思う。 ・中津川保育園の統合により、送迎の渋滞等の交通トラブルが心配。 ・中津川保育園の立地は工場が付近にあり良くない。交通量も多く送迎に不便。	・本計画においては、施設整備の実施を検討しておりません。統合に際してはいただいたご意見を参考とさせていただくとともに、対応については園と地域の実情を照らし合わせながらより良い形を作るよう進めてまいります。
13	落合 苗木 中津	・全体的に公立が減るため計画に反対。 ・幼稚園・保育園の統合、民営化反対。 ・一色、北野保育園を統合し0～5歳児の公立園として運営してほしい。	・頂いたご意見を参考とさせていただくとともに、引き続き子ども目線を大切にしつつ、子どもと子育てををする保護者を支援していくよう進めてまいります。

「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画～よりよい幼児教育・保育環境を提供するために～
(令和3年度～令和12年度) 第一次改定版(案)」に寄せられた意見と市の回答(概要)

意見提出人数104人(意見総件数159件)

②こども園化に関する意見

(6件: 中津地区3件、坂下地区1件、付知地区1件、蛭川地区1件)

概要番号	地区	意見	教育委員会の意見
14	中津	・改定前は「中津川こども園」としていたのが、改定後は保育園なのはなぜなのか。中津地区の公立はなぜこども園にしないのか。	・中津地区は公立、私立の幼稚園、保育園等がそれぞれあり、保護者の幼児教育・保育需要により施設を選択できる環境にあります。そのため本計画にあたっては中津川保育園、中津川幼稚園いずれもこども園とせず継続し運営するよう計画しております。
15	中津	・就労しているが、幼稚園に通わせたい場合のことをどのように考えているのか。	・こども園入園時において幼稚園コースをご希望される場合、保育コースのような保育の認定事由は必要ありません。そのため、就労をしている場合でも、送迎時間や長期休業時のこども園利用に支障が無い場合は幼稚園コースを選択することが可能です。また、幼稚園における入園についても同様です。
16	付知	・こども園となり、1号認定の子の家庭の事情、降園時間、夏休みの配慮はどうするのか。	・1号認定を受けているご家庭が、何らかの事情により保育の必要性が生じた場合は事前手続きのうえ、2号認定(保育短時間、保育標準時間認定)に変更することが可能です。 ・こども園の降園時間は、認定区分により1号認定は教育標準時間といひ15時、2号、3号認定は保育短時間、保育標準時間といひ16時～18時というように定められております。そのため1号認定の園児は教育標準時間後はご家庭での教育保育をお願いしております。 ・夏休みは教育標準時間認定の園児らに対して行っておりますので、ご家庭での教育保育をお願いしております。 ・1号認定を受けているご家庭において、保育の必要性が無く、何らかの突発的な事情により預かりが必要となる場合があることも想定されます。要望が多ければ、1号認定における一時預かりの実施について検討してまいります。
17	中津	・当初の中津川こども園の案はなぜなくなったのか。	・中津地区は公立、私立の幼稚園、保育園等がそれぞれあり、保護者の幼児教育・保育需要に応じた施設が選択できる環境にあり、市の中心地域として利用が集中する地域であります。公立園は私立園と比較し、定員に対する利用率が低い状況にあります。そのため、令和3年度5月策定計画では一色保育園と北野保育園を令和12年度に統合し、「中津川こども園」として公立で運営する計画でございました。しかし、これまで年間400人程度で想定していた出生数が年間370人程度まで減少する可能性が生じたため、公立園、私立園がともに子どもたちの育ちにとって望ましい保育環境、適切な集団規模を確保するために、一色保育園と北野保育園の統合ではなく、段階的な中津川保育園への統合を行います。
18	坂下	・坂本こども園の検証についての報告を聞きたい。	・坂本こども園の検証は、事務局及び園との間で協議を進めております。検証内容は今後のこども園化に活かしてまいります。

③指定管理に関する意見

(15件: 中津地区5件、坂下地区1件、付知地区9件)

概要番号	地区	意見	教育委員会の意見
19	中津	・指定管理のメリット、デメリットを検討するべき。	・指定管理のメリット、デメリットについては、計画を進めていく中で改めて検討していきたいと考えております。今後、適切な幼児教育・保育を提供できるよう進めてまいります。
20	付知	・公立園と民間園が統合して指定管理になっているがなぜか。 ・民間園と公立園を一緒にする必要があるのか。 ・民間園との統合は可能か。統合した場合、指定管理ではなく公立として残してほしい。 ・苗木はきちんとした未満児保育の環境が出来る施設を提供してほしい。	・これまでも各地域において、私立の幼稚園、保育園においては、適切な運営、幼児教育・保育を提供してきております。多様化する保育需要に柔軟な対応が出来る新しい形の幼児教育・保育環境を提供するために、民間事業者が持つノウハウやアイデア、特色などを活かし、効果的・効率的な幼児教育・保育の提供が行われることを目的と行います。また、未満児から就園までの間、継続した幼児教育・保育を提供できるよう統合を進めてまいります。
21	坂下 付知 中津 苗木	・保育、教育、福祉、医療等は法人に任せず公費を投じ行ってほしい。 ・子どもを育てるのは公的な施設で手厚く行うのが当然。 ・子どもは身近な地域で公立として保証してもらおうが一番いいと思う。 ・苗木保育園を法人との指定管理とし苗木こども園とするのではなく、0～5歳児一貫の保育を提供できる施設として、公立での運営をしてほしい。	・私立園は行政の認可のもと、一定水準以上の教育・保育が提供されており、さらに指導監査、各種評価の取り組み等により、教育・保育の質の向上に向けた支援を行っています。また、市が行う保育の実施は、公立園を指定管理または統廃合をしても、市が責任を以て行っていくことに変わるものではありません。
22	苗木	・民営化した際、子どもの安全について、市が民間に対してどのように監督が出来るのか。	・これまでも私立の幼稚園、保育園に対しては、県・市において指導監督を行ってまいりました。指定管理後も引き続き指導監督を行ってまいります。

「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画～よりよい幼児教育・保育環境を提供するために～
(令和3年度～令和12年度) 第一次改定版(案)」に寄せられた意見と市の回答(概要)

意見提出人数104人(意見総件数159件)

④保育の質(保育士の処遇改善含む)に関する意見

(21件:中津地区12件、坂下地区1件、付知地区3件、福岡地区2件、蛭川地区2件、市外1件)

概要番号	地区	意見	教育委員会の意見
23	阿木 付知 中津	・現在の保育士基準は昭和23年に来たもので今の時代にそぐわないと思う。 ・保育士の最低配置基準を見直ししてほしい。 ・県や国に保育士の定数を増やす法改正を強く働きかけてほしい。	・保育士の配置基準の見直しについては、本計画策定の過程でも上がっており、他市町村の状況を確認しながら対応を検討したいと考えています。
24	苗木 中津 中津 中津	・統合によって子どもの人数が増加するが、保育士の配置はどうか。 ・保育士の目の届く範囲での保育が出来る環境の確保をしてほしい。 ・保育の質を向上する取り組みについて、中津地区の公立園と私立園数の差がある中どのように取り組むを進めるのか。 ・幼児教育を後押しするべく、保育士の優遇等よりよい幼児教育を実現するためにも財政的確保をするべきと考える。	・本市では、園児の状況等に応じて、加配保育士を厚く配置しており、令和4年度では、3歳児は平均で8:1、最大で14:1、4歳児は平均11:1、最大21:1、5歳児は平均10:1、最大18:1、と基準以上の保育士を配置しています。本計画を進めることで、1園あたりの子どもの数が増えることとなりますが、保育士人数も増えることになり、子どもの適切な集団規模の確保と適切な保育士の人数の確保が可能になると考えております。 ・本計画を進めることにより、公立施設においては正規職員の比率向上などを通じ、教育・保育や子育て支援サービスへの更なる拡充、発達支援を要する園児への支援の実施が見込まれます。また、多種多様な保育需要に対応する子ども・子育て支援施策への効果的な財源配分を行うことが可能になり、私立施設への保育の質を向上する取り組みに対する財政的補助が可能になるものと考えております。また、私立施設には、市が実施する研修への参加を引き続き促すなどし、更なる教育・保育の質の向上を図っております。
25	福岡 福岡	・少人数で保育をした方が穏やかな子どもが育つと思う。 ・一つのクラスに25人以上になったときに一人一人目が行き届くのか。統合により、保育士の負担も増えるように思う。	・平成24年2月策定の中津川市学校規模等適正化において検討された適切な集団規模20人から30人という数字をもとに、本計画では、適切な集団規模は20人を基準とさせていただいております。子ども達が集団を楽しむこと、子ども達同士が影響を受け育ちあうことが出来る規模として考えております。また本計画にあたり、公立施設における保育士の比率も向上するため、子どもたちの適切な集団規模の確保と保育士の確保及び勤務環境の改善に繋がるものと考えております。
26	中津	・200人以上の園というのは大きすぎると感じる。子ども一人一人に気を配れる規模の大きさも必要ではないかと思う。	・計画書の工程表で示した人数は現在の園児数であり、現在も減少傾向にあります。定員については施設の規模に見合った定員を設定するとともに、100名を超える大規模園となる場合にも、適正に職員を配置し、よりよい幼児教育・保育環境を提供するよう進めてまいります。
27	市外	・保育園の統合により、保育士の雇用確保に問題が生じると思うが、どう考えるか。	・本計画は子どもたちの適切な集団規模の確保と、多種多様な保育需要に対応するために必要な保育士の確保及び勤務環境の改善を目的としています。そのため、常勤保育士の数を減らすことは検討しておりませんので、保育士の雇用確保に問題が生じるとは考えておりません。常勤以外の保育士についても支援を要する子ども達の人数に応じ、雇用をしていくよう検討しております。

⑤支援児に関する意見

(3件:中津地区3件)

概要番号	地区	意見	教育委員会の意見
28	中津	・統合後の中津川幼稚園の支援児クラス設置を西幼稚園で考えてほしい。	・本計画では現南幼稚園での運営を想定しております。西幼稚園での支援児クラスの設置は、想定しておりません。
29	中津 中津	・発達支援クラスを現在の南幼稚園園舎に設置するということが、どこに作る予定か、幼稚園は夏休みがあるが、発達支援クラス在籍時には64時間の就労が困難な家庭もあると思う。普段は15時までの保育時間で良いとしても夏休みのため幼稚園が利用できない保護者が発生する恐れがある。夏休みの間母親一人で支援児を見るのは大変な事だと思うので、夏休みがない幼稚園の支援児クラスは大変ではないかと思う。 ・(新)中津川幼稚園の支援児クラスはどこに確保するのか。	・幼稚園は園児は教育標準時間認定となります。そのため夏休みはご家庭での教育保育をお願いしております。なお、1号認定を受けているご家庭において、ご意見にあるように預かりが必要となる場合も想定されます。要望が多ければ、1号認定における一時預かりの実施について今後検討してまいります。 ・統合後の中津川幼稚園は現在の南幼稚園での運営を想定しております。支援児クラスは南幼稚園園舎内の遊戯室において令和5年夏ごろに一部改修を実施し、新たに設けるよう進めております。

⑥パブリックコメントに関する意見

(3件:中津地区2件、福岡地区1件)

概要番号	地区	意見	教育委員会の意見
30	苗木 阿木	・各種団体の意見が述べられているが、市民のパブリックコメントの意見や意見の数など、どれくらいの数の意見があったのか具体的に明らかにしてほしい。 ・策定側三者の意見掲載、パブリックコメントの記載なし。	・今回の計画案に記載の内容については、今回のパブリックコメント募集後、関係機関への意見聴取を実施したうえで、意見内容を反映した計画を策定させていただきます。計画策定時に、今回のパブリックコメントの意見や意見数について、公表させていただきます。
31	福岡	・パブリックコメントの募集方法が一方的かつ分かりにくい、ほとんどの人が知らずに終わる。保育園と連携し、保護者に届くようにしてほしい。	・市民の皆さまへのお知らせは大切なものであり、最も多くの市民の皆さまにご利用いただいている「広報なかつかわ」や「市民安全情報ネットワーク」を活用させていただきます。本計画策定後、改めて各地域の保護者や子育て世代の方々を対象とし、説明会の場を設けるよう進めてまいります。

⑦計画全般に関する意見

(8件:中津地区8件)

区分	地区	意見	教育委員会の意見
32	中津 中津	・改定後は私立の定員を増やしていくことを考えていると感じた。中津川市は公立幼保の幼児教育がどうあるべきか子どもの現実をみながら実践していきたいと思う。 ・保育士も少なくなってきたのでこう思うしかないと思う。	・本計画は、少子化による子どもの減少に伴い子どもたちの適切な集団規模の確保と、多種多様な保育需要に対応するために必要な保育士の確保及び勤務環境の改善を目的とするものです。そのため中津地区など私立園が存在する地域では私立園との協働を進め、公立園と私立園の役割を果たし、中津川市のより良い教育・保育環境の提供と質の向上を進めていきたいと考えております。また、公立園は私立園だけでは対応の難しい保育需要、支援を要する子どもへの支援、公的機関との連携が必要な場合の対応を積極的に担い、中山間地域など民間事業者の参入が見込めない地域での、教育・保育を提供する場を市が責任をもって提供する必要があると考えております。

「中津川市幼児教育・保育施設適正配置計画～よりよい幼児教育・保育環境を提供するために～
（令和3年度～令和12年度）第一次改定版（案）」に寄せられた意見と市の回答（概要）

意見提出人数104人（意見総件数159件）

⑧計画の進め方に関する意見 (19件：中津地区11件、坂下地区1件、付知地区1件、福岡地区4件、蛭川地区1件、市外1件)			
区分	地区	意見	教育委員会の意見
33	落合 福岡 中津 苗木	<ul style="list-style-type: none"> ・中津川保育園、一色保育園、北野保育園が令和9年度に統合され定員120人となっているが、地域関係者説明会時に反対意見があったらどう対応するのか。 ・高山保育園のまま卒園出来ればと考えているが、福岡こども園化の予定であれば事前の説明会をしてほしい。 ・指定管理、統合先の園の保護者らと計画について話し合い、安心して登園できる時間を保障してほしい。 ・苗木保育園のこども園化にあたって、保護者への丁寧な説明をしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画の策定に伴い、関係地域において順次地域関係者に向けた説明会を実施するよう検討しております。説明会の際に出た要望や意見を踏まえたうえで、その地域にとってより良い形になるよう計画を進めてまいります。
34	坂下	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年のパブリックコメントで「通園バスを確保して欲しい」とあり、回答では「スクールバスを運行する予定はない、具体的な方法を検討する」とあったが、どのような検討がされたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通園バスの運行は現時点で予定はしておりません。本計画の統合により、各ご家庭の通園距離が長くなることは事実ですが、市内公立の統合しない園と比較しても同等の通園距離になると考えており、通園距離が長くなることに伴いなんらかの対応をすることも現時点では検討しておりません。今後さらに少子化が進行し、統合の範囲がさらに広域に拡大するような状況が発生した場合は改めて検討してまいります。
35	苗木	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年5月に出された計画でP4「人材資源を有効に活用し、子どもたちの保育環境はもとより、保育の質の向上に資する」とあるのは今回の案でどのように議論したのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画の改定の目的は、少子化の進行による現状と令和3年度から令和4年度までの各地域における動きを反映したものになります。本計画は子どもたちの適切な集団規模の確保と、多種多様な保育需要に対応するために必要な保育士の確保及び勤務環境の改善を目的としており、中津川市幼児教育・保育施設運営協議会、中津川市教育委員会及び中津川市子ども子育て会議からの意見を踏まえたうえで進めております。
36	苗木	<ul style="list-style-type: none"> ・住民出生数推移について、日本人のみと限定するのは不十分ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民出生数推移については、現在の中津川市の人口動態を掴むための一つの指標として用いております。
37	中津 福岡 中津	<ul style="list-style-type: none"> ・出生数推移によるR1からR2の減少数は新型コロナウイルス感染症による影響が考えられる。新型コロナウイルス感染症が落ち着くまで少子化の状況を見守る必要があると思う。 ・統合を前倒しするのは後に不具合が起きると思う。 ・適正配置計画のスケジュールを早くしたらどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の要因は、コロナ禍の状況の他にもありますが、コロナ禍以前から少子化は進行しており、子どもたちの適切な集団規模の確保が難しくなっている状況です。本計画は今後の子どもたちの適切な集団規模を確保するために行うものですのでご理解賜りますようお願いいたします。 ・本計画は、公立園、私立園それぞれの役割を十分に踏まえたうえで、多種多様な保育需要の変化、少子化の状況、待機児童の状況等、長期的に変動していく幼児教育・保育環境を見極めながら今後も進めてまいります。
38	蛭川 市外	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化といって園を減らせば、更に少子化が進み、子育てしやすい中津川市にならない。近くに園があれば安心して、子どもを預けられる。 ・保育園を減らすのは何故か。旧中津川市内の三園の統廃合は適正な判断基準になっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画は子どもたちの適切な集団規模の確保と、多種多様な保育需要に対応するために必要な保育士の確保及び勤務環境の改善を目的としております。本計画を進めることにより、公立施設においては正規職員の比率向上などを通じた教育・保育や子育て支援サービスへの更なる拡充、発達支援を要する園児への支援の実施が見込まれます。また、多種多様な保育需要に対応する子ども・子育て支援施策への効果的な財源配分を行うことが可能になり、私立施設への保育の質を向上する取り組みに対する財政的補助が可能になるものと考えており、移住・定住推進施策の事業の一つでもある「子育て支援の充実」につながるものと考えております。 ・中津地区は公立、私立の幼稚園、保育園等がそれぞれあり、保護者の幼児教育・保育需要により施設が選択できる環境にあります。また周辺地域からの利用も多く、市の中心地域として利用が集中していますが、公立園は私立園と比較し定員に対しての利用率が低いこと、少子化の進行状況を踏まえ、今後適切な集団規模の確保が課題になると判断しました。